

科目名(英文名)	ナンバリング	単位数	年次	期間	担当者
技術標準と知的財産特論【MR】 (Advanced Study of Technical Standards and Intellectual Property)	MPCD23/MPCD05	2	1年次	前期	村川 一雄(ムラカワ カズオ)

授業のねらい概要	<p>グローバルな世界経済の進展にもない、さまざまな産業分野(通信、電気、化学、医療、農業など)での標準化が加速されており、標準化は国家戦略上、一段と重要なものとなっている。一方、標準化により技術がオープン化され、保有知的財産が安易に実施・侵害され、さらに競合他社の市場参入が増えるとの懸念がある。しかし、標準化を推進することで各国における参入障壁や規制が低減し、また、市場規模が拡大し、さまざまな製品やサービスが安心・安全、安価に調達できるメリットを享受することができる。さらに自社技術や製品・サービスが広く普及する基盤の醸成につながることも大きく期待されている。</p> <p>本講義では、標準化機関、標準規格に含まれる標準必須特許(SEP)とそれに係る訴訟問題、特許ライセンスに係わる特許プールとその課題について理解し、説明できるスキルを修得することを狙う。さらに、具体的な標準化事例を活用し、標準化における重要な戦略やポイントについてチームで議論する演習を行うことで、説明力を養成することを狙う。その他、具体的な標準規格を読解し、あわせて仮想的に標準規格を作成、交渉する演習を行うことで交渉力を涵養する。</p> <p>本講義はメディア対応授業に該当する。</p>
----------	--

回数	テーマ	授業の内容・教育方法	予習/復習
第1回	ガイダンス	本講義の狙いや目的、取得すべきスキル、講義での課題や評価方法などについて紹介する。	シラバスを確認し関連の調査をすること。このため、講義の前後に4.5時間以上、予習復習すること。
第2回	技術標準団体と標準規格	ISO/IEC/ITUなどの標準化団体とその活動、標準規格の役割について理解し、重要なポイントについて説明できる。	配布資料を読み関連の事前調査を行う。また、事後に追加調査を行う。このため、講義の前後に4.5時間以上、予習復習すること。
第3回	標準必須特許(SEP)とその課題	技術標準に含まれる標準必須特許(SEP)とその課題について理解し、重要なポイントについて説明できる。	配布資料を読み関連の事前調査を行う。また、事後に追加調査を行う。このため、講義の前後に4.5時間以上、予習復習すること。
第4回	IPRポリシーとその課題	標準化規格に含まれる特許に関するIPR宣言書(IPRポリシー)の役割とその課題について理解し、重要なポイントについて説明できる。	配布資料を読み関連の事前調査を行う。また、事後に追加調査を行う。このため、講義の前後に4.5時間以上、予習復習すること。
第5回	特許プールとその課題	効率的なライセンス交渉の実現手段としての特許プール(パテントプール)と関連する諸問題について理解し、重要なポイントについて説明できる。	配布資料を読み関連の事前調査を行う。また、事後に追加調査を行う。このため、講義の前後に4.5時間以上、予習復習すること。
第6回	標準化事例研究演習(1)	標準化事例研究(ソニー フェリカ)を活用し、標準化を進める上で重要なポイントについて理解し、説明できる。	配布資料を読み関連の事前調査を行う。また、事後に追加調査を行う。このため、講義の前後に4.5時間以上、予習復習すること。
第7回	標準化事例研究演習(2)	標準化事例研究(サイバーダイナミクス 生活支援ロボット)を活用し、標準化を進める上で重要なポイントについて理解し、説明できる。	配布資料を読み関連の事前調査を行う。また、事後に追加調査を行う。このため、講義の前後に4.5時間以上、予習復習すること。
第8回	標準化事例研究演習(3)	標準化事例研究(大成プラス 樹脂接合)を活用し、標準化を進める上で重要なポイントについて理解し、説明できる。	配布資料を読み関連の事前調査を行う。また、事後に追加調査を行う。このため、講義の前後に4.5時間以上、予習復習すること。
第9回	標準化事例研究演習(4)	標準化事例研究(オリンパス 医療機器)を活用し、標準化を進める上で重要なポイントについて理解し、説明できる。	配布資料を読み関連の事前調査を行う。また、事後に追加調査を行う。このため、講義の前後に4.5時間以上、予習復習すること。
第10回	標準化事例研究演習(5)	標準化事例研究(サムスンとアップル訴訟)を活用し、標準化を進める上で重要なポイントについて理解し、説明できる。	配布資料を読み関連の事前調査を行う。また、事後に追加調査を行う。このため、講義の前後に4.5時間以上、予習復習すること。
第11回	中国標準化戦略(1)	標準化大国である中国の標準化戦略と其の狙い、課題について理解し、重要なポイントについて説明できる。	配布資料を読み関連の事前調査を行う。また、事後に追加調査を行う。このため、講義の前後に4.5時間以上、予習復習すること。
第12回	中国標準化戦略(2)	中国におけるパテントプール形成の実態とその課題について理解し、重要なポイントについて説明できる。	配布資料を読み関連の事前調査を行う。また、事後に追加調査を行う。このため、講義の前後に4.5時間以上、予習復習すること。
第13回	技術標準規格の読解演習	具体的な技術標準規格書を読解し、そのポイントについて説明できる。	配布資料を読み関連の事前調査を行う。また、事後に追加調査を行う。このため、講義の前後に4.5時間以上、予習復習すること。
第14回	技術標準規格の作成演習	具体的な技術標準規格に対して、仮想的に改善提案を行い、その狙いと戦略について説明できる。	配布資料を読み関連の事前調査を行う。また、事後に追加調査を行う。このため、講義の前後に4.5時間以上、予習復習すること。
第15回	技術標準規格の交渉演習	標準規格の改善提案について、チームに分けてその改善提案について議論し、議論における重要なポイントについて説明できる。	配布資料を読み関連の事前調査を行う。また、事後に追加調査を行う。このため、講義の前後に4.5時間以上、予習復習すること。

到達目標	<p>以下、必要最低限の項目を達成すること。</p> <p>(1) 標準化団体やその活動を理解し、標準規格に含まれる知的財産の役割を理解し、説明できる。</p> <p>(2) IPRポリシーに関して理解し、その課題について説明できる。</p> <p>(3) 標準化事例研究について調査し、標準化を進める重要性とその課題について理解し、説明できる。</p> <p>(4) 標準化を強化する中国の標準化戦略とその課題について理解し、説明できる。</p> <p>(5) 標準規格の読解および作成、交渉演習において自ら考え、提案することで、標準化のポイントを理解し、説明できる。</p>
評価方法	講義への参加姿勢や貢献度を踏まえ、平常点15%、演習85%の割合で総合的に評価する。演習結果について、週週もしくは最終回到フィードバックを図り、理解を促進する。
成績評価基準	<p>到達目標(1)を達成できていない場合には、本単位を取得できない(欠格条件)。</p> <p>平常点(授業中の発言、レポートと発表の内容を総合して評価する)。</p> <p>総合点 90~100 評価「A」:</p> <p>総合点 80~89 評価「B」:</p> <p>総合点 70~79 評価「C」:</p> <p>総合点 60~69 評価「D」:</p> <p>総合点 0~59 評価「F」:</p> <p>(注)評価の結果は、「A」~「D」を合格、「F」を不合格とする。</p> <p>上記到達目標の(1)から(5)の全課題の提出と授業中の回の発表を必要条件とする。さらに、期末レポート論点および自己意見の進歩性を考慮して総合的に点数評価する。</p>

教科書			参考書		
書名	著者名	出版社名	書名	著者名	出版社名
技術標準と知的財産特論(プリント)			技術競争と世界標準	山田 肇	NTT出版
			デファクトスタンダード	山田英夫	日本経済新聞社
			知的財産制度とイノベーション	後藤 晃、長岡貞男	東京大学出版会
			情報通信と標準化	浅谷耕一監修	電気通信振興会
			知的財産と標準化戦略	藤野仁三	八雲社

受講心得	<p>授業では最新の動向を調査し、問題点や課題について討論形式で議論するので積極的に参加すること。</p> <p>事前に与える課題について調査し発表資料を準備すること。講義での発表・討論結果を基にさらに追加調査し、発表資料を改訂すること。</p> <p>本科目はメディア授業対応に該当する。</p> <p>課題の中で誤解等があれば講義中に解説するのでこれを通して理解を深めること。</p>
------	--

オフィスアワー	講義は、前期の毎週土曜日の3限目とする。なお、オフィスアワーは土曜日の1, 2限目とし、村川研究室のほか、メールにて各種相談に応じる。
---------	---